高知女子大学看護学会誌　VOL.33, NO.1, p162　2008

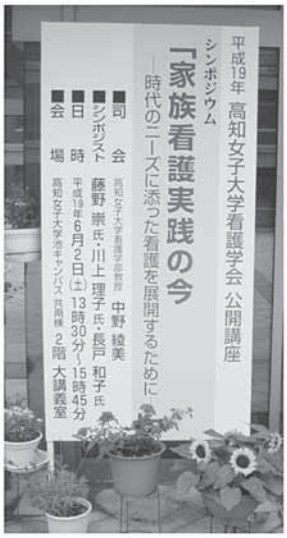
平成18年度高知女子大学看護学会「公開講座」報告

長　戸　和　子*

平成18年度高知女子大学看護学会公開講座を平成19年６月２日（土）池キャンパス大講義室にて開催した。近年の早期退院、在宅医療の推進という医療情勢の変化により、患者を含めた家族全体を視野に入れた看護支援の重要性は益々高まっていることから、家族看護を取り上げ、「家族看護実践の今－時代のニーズに添った看護を展開するために－」をテーマとして、シンポジウムを開催した。さまざまな施設から、121名の看護に携わる方々のご参加を得た。

松本女里学会長による挨拶の後、本学看護学研究科家族看護学領域の修了生で、現在近畿大学医学部附属病院看護師として家族看護を実践されている藤野崇氏、本学看護学部地域看護学領域准教授の川上理子氏、長戸の３名がシンポジストとして発言した。詳細については、本誌２～16ページをご参照いただきたいが、藤野氏には臨床看護ケアの立場から、実際の実践事例を交えながら、臨床における家族看護の現状や課題について、川上氏には在宅ケアの立場から、在宅への移行にかかわる現状や課題について発言していただいた。長戸は教育や研究の視点から、家族看護の教育や研究、実践にかかわる現状や課題について発言した。その後のディスカッションでは、在院日数が短縮化される中で、患者だけでなく家族も含めたケアを提供していくことの難しさは、多くの看護者が感じていることであるが、その中でもスタッフ間で情報を共有すること、カンファレンスや事例の検討を通して成功例を強化していくこと、看護者の価値観ではなく家族の価値観やありように添うことなどの重要性が確認され、非常に有意義な時間となった。

終了後のアンケートでは、家族看護への関心の高さとともに、看護者の方々が家族ケアの方策を模索しながら取り組んでいることがうかがえ、今回の公開講座はこのような方々にとって新たな視点を提供するものとなったのではないかと考える。



*高知女子大学看護学会企画委員長